



# 正法寺新聞

宗祖親鸞聖人しんらんしょうにん七百五十回

御遠忌法要厳修

十月二日(金)

十月三日(土) ※午後は帰敬式執行



1978. 版権影. 寺 

3/100

2015. 8.

7

第 号

正法寺発行



私たちが法要実行委員です



宗祖親鸞聖人  
七百五十回御遠忌法要

特集記事③

御遠忌法要に向け、話し合いも大詰め。  
今回は法要実行委員会について

お知らせします！

『御遠忌法要を迎えるにあたって』

法要実行委員会は午後3時前に皆さんが集まり、机の準備から始まります。坊守さんから渡された数枚ずつの資料を机上に配布し、そして全員で合掌・念仏・真宗々歌を唱和し会議を開始します。委員会のメンバーは、住職・前住職・坊守さんの3名の他、総代13名で構成されています。議題は主に、①工事・修復・修理等の状況と今後の日程について②会計報告（現状について）③帰敬式について④日程について⑤当日の記念品・弁当等について、など話し合っています。記念品の経本については、正法寺オリジナルの編集となっていて、ですので、経本を入れる袋と合わせてご期待下さい。それでは多くの皆様方の積極的な御参詣を委員会一同心よりお待ちしております。

法要実行委員一同

文責／三根義久

| 集合写真 | 氏 名          | 住 所  |
|------|--------------|------|
| ○    | 丹野 敏幸（総代長）   | 久原   |
| ○    | 福山 博文（総代）    | 池田   |
| ○    | 畠田 義博（〃）     | 鬼橋   |
| ○    | 田中 正則（〃）     | 小路口  |
| ○    | 三根 義久（〃）     | 上諏訪  |
| ○    | 前田 信之（〃）     | 竹松本町 |
| ○    | 山本 英樹（〃）     | 竹松   |
|      | 為永 伸夫（〃）     | 片町   |
|      | 井手 眞一郎（〃）    | 竹松本町 |
| ○    | 堀出美智子（洗心会々長） | 諫早   |
| ○    | 渡辺ツヤ子（洗心会）   | 久原   |
| ○    | 山口 博子（洗心会）   | 杭出津  |
| ○    | 内田 吉子（洗心会）   | 諏訪   |



7月9日の法要実行委員会の様子





宗祖親鸞聖人  
七百五十回御遠忌法要



## 「洗心会」 一日研修旅行



### 欄間の金箔を貼り替え

もともと貼ってあった金箔を全て除き、一から貼り直すという細かい作業。

4月14日(火)、洗心会では一日研修旅行(日帰り)に出かけました。その旅行の一環で、本堂仏具修復をお願いしている井ノ口仏壇店様での修復の様子に皆さん感激されていました。法要の際には全ての仏具が本堂に戻ります。

### お宮殿(ご本尊上の屋根)を修復中

仏具は全てバラバラに解体されて修復・洗濯されていました。



### 〓お寺の感想よ〓

●お寺の仲間と一緒なので安心感があります。井ノ口仏壇店様での修復を拝見させていただき、仕事の大変さ、仏具を長く保存する工程のほんの一寸の時間の見学でしたけど頭が下がる思いでした。

7月7日(水) 修復が終わった仏具が本堂に搬入されました。  
法要当日には全て揃います。ぜひ直接本堂でご覧ください!!

こちらは欄間の表側。前回の新聞では埃をかぶって真っ黒になっていました。見比べてみて下さい!



見かけよりも重いんです・・・



前回の新聞で掲載していた同じ欄間ですが、きれいに塗り直され、寄付下さった方のお名前もはっきりと分かるようになりました。

隙間が全部ちゃんと  
はまってるかぁ??







# 紙上体験

## 正法寺 ② 法要

お寺の行事へあまり来られ  
た事がない方も、紙上で  
正法寺を体験できます！

「お寺は敷居が高くて…」と  
いませんか？そんな方にま  
ずは紙上で正法寺を体験  
いただくのがこのコーナー。  
今回の特集は「法要」です。  
儀式には決まり事もあり初  
めての参加は何かと不安か  
と思います。何度も参詣下  
さっている方でも意外と知  
らない事も?! また、真宗  
寺院の法要では「ご法話」  
が大切にされています。そ  
れはなぜでしょうか？そ  
んなハテナについてもお  
答えしています。

## 2. 法要は↓下のような順序で進みます

- ③ 僧侶が外陣に降り『御文』  
をお読みします。下を向  
いたままお聴きします。



- ① 本堂にて法要の流れを確認  
します。法要によって内容  
が異なります。



- ④ 休憩の後は『ご法話』。  
まず『三帰依文』(赤本に記載)  
を読まれる先生が多いです。



- ② お勤めが始まります。  
『正信偈』はみなさん  
一緒に唱和しましょう。



## 1. 本堂に上がり合掌礼拝の後、席に着きます。



御志納や維持費などは、納骨堂下の門徒会館で  
受付ています。法要開始前にお済ませ下さい。



※御遠忌法要の受付は外になります。

# 法要のハテナ？



『御文』って何ですか？

本願寺第八代蓮如上人<sup>れんにょしょうにん</sup>が、ご門徒たちに宛てた「御手紙」で、真宗の教えがわかりやすく、しかも簡潔に書き表されています。当時（室町時代）の「御文」は、ご門徒に広く公開され、法座につらなつた読み書きが出来ない人々も、蓮如上人の「御文」を受け取った人が拝読するその内容を耳から聴いて、聖人の教えを身に受け止めていかれました。その中から八十通を五冊にまとめた『五帖御文』<sup>ごじょうおふみ</sup>が最もよく知られています。法要の際は僧侶が外陣に降り御文を読み上げます。参詣者は拝読者が御文を頂戴するのに合わせて頭を下げ、頭を下げた姿勢のままお聴きします。



なぜ「法話」をお聴きするのですか？

法要で勤めるお経には、お釈迦様が苦悩する様々な人々に説いて回られた教え（お説法）が書かれています。その教えを分かりやすく伝えるのが「法話」です。お釈迦様は、私たちは煩惱に振り回され生きている身だと説かれます。親鸞聖人も又、罪惡深重の凡夫<sup>ぼんぷ</sup>という言葉で人間の有り方を示されました。皆さんは自分の事は自分が一番よく知っていると考えておられるでしょう。しかしそれは自分の都合の良いように見た「私」ではないでしようか。教えを聞く事、それは自らの力では出遇う事のできない真実の自分に出遇っていく事です。慌ただしい日々の中、自分との出遇い直しの場を持つ。それが「法話」の時間です。法要の際はぜひ「法話」までお聴き下さい。

# 道具のハテナ？



よく見かける道具について教えて下さい。



法要には何を持って行けばいいですか？

基本的なものは右の写真の二つです。この二つを持って来て下されば十分という道具です。勤行集は通常「赤本」と<sup>あかほん</sup>読んではおり、『正信偈』の同朋奉讃式が載っています。一重念珠の持ち方はこちらです。←



二重念珠は重い法要の際に用います。

仏事に関わる道具は直に置かず、布や紙などをひいて置くなどして丁寧に扱うようにしましょう。





# 洗心会々報

第八号

【短縮版】

5月17日(日)、洗心会主催『春の法要』が行われました。釈尊降誕会、新生児初参り式、子ども花祭りが行われるこの法要は、ここ数年子どもの参加数も増え盛況となっています。今年初めて本堂の下に甘茶コーナーを設置しました。日曜ということもあり、お墓参りに来られた方々が飲まれるなどの光景も見られました。飲まれた事のない方はぜひ来年ご参詣下さい！



## 坊守の 仏 ツ 寺 日記

【二】

お寺での出来事や、お寺での子育ての事などを坊守(ぼうもり)視点で綴ります。

みているひとがいる  
そだてるひとがいる  
しんじるひとがいる  
ひとりぼっちじゃない  
「共に遊んだきみへ」より



4月に3回目の俱会一処ライブ(シンガー&ソングライターのタテタカコさん)を開催しました。今回は子育て中のお母さんも本堂にとい子供部屋と一緒に歌うコーナーを設けました。その際歌った、私と私の父とタテさんとの共作である曲の歌詞の一部を冒頭に載せています。この歌詞は阿弥陀様の願いが元にあります。子供達にはどんな時も「受けとめ手」が必要です。阿弥陀様の願いから私たちが子ども達に對しどういう存在になっていく必要があるのか、そんな事を考えるきっかけとして味わっていただけたらと思います。(曲は正法寺HPで聴けます)

## 正法寺近況

正法寺の役僧に  
加わりました！

こうせい

原田 崇誠 (23)

- 出身地 大分県竹田市
- 大学時代住んだ所 名古屋市
- 大村の印象は？ 皆さん親切！です。



ひとこと  
新参者で失敗することもあります、くじけずに頑張っていきたいと思います!!



### パンフレット完成

正法寺キッズと女性部「洗心会」のパンフレットが出来ました。お寺の各所に設置しています。登録・入会用紙もついています。



工事が続いています  
御遠忌法要に向け、工事が続いています。駐車などご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願い致します。

### 編集後記

正法寺新聞7号いかがでしたか？いよいよ10月、御遠忌法要が勤まります。親鸞聖人の事を初めて知るといってもいい本堂に上がっていただきたいと思っています。修復後のお仏具もぜひご覧ください。

# 住職が語る『正信偈』第8回



如来所以興出世 唯說弥陀本願海

五濁惡時群生海 応信如来如実言

前回までは阿弥陀如来の誓願について説かれる「弥陀章」をみてきました。そこでは、「あらゆる存在を救おう」という阿弥陀如来の願いが私たち一人一人にかけられているということをお教示くださいました。今回からは、お釈迦様のことが説かれている「釈迦章」へ入ります。

さっそく最初の四句をみていきましょう。ここを現代語に訳すと「お釈迦様や諸々の仏様がこの世界に現れてくだされたのは、ただ海のように深い阿弥陀如来の本願を説こうとされるからです。五濁(※)という煩惱で濁った時代を生きる人々は、お釈迦様や諸仏が説かれる真実の言葉を信じましょう」という意味になります。つまりお釈迦様のご誕生の意義がここで明らかにされているのです。

ではここでお釈迦様がどのような方であったか少し確かめましょう。お釈迦様は二千五百年前のインドでシャカ族の王子としてお生まれになり、城の中で何不自由ない暮らし

をされていました。しかしある日、生老病死という人間の持つ根本的な苦に出遇われ、二十九歳でその苦を超えていく道を求め城を出、苦行の生活に入られます。不安や苦悩に負けない自分を作るため様々な苦を自らの心身に与えますが、その闇は晴れず、「そもそも苦というものは何故あるのだろうか」という問いを持つに至り、六年間の苦行を捨て菩提樹の下で瞑想しその答えを見つけたいかれます。そしてついにお釈迦様は『真理に目覚めたもの』(フツダ)となられたのです。覚りをひらいたお釈迦様はその後、涅槃に入られるまでの四十五年間インド各地を転々とし、その覚りを苦悩する人々に伝える生活を送られました。

では、話を正信偈に戻しましょう。お釈迦様はその生涯でインド各地を巡り、数多くの説法をされましたが、親鸞聖人はお釈迦様がこの世にお生まれになられた本当の意味は、阿弥陀仏の本願を説くためであったと言いついておられます。これはなにも、お釈迦様が説かれた法の中で阿弥陀如来の本願の教えだけが優れている、

他の教えが劣っていると言われているわけではありません。五濁という煩悩の身から離れられない私にとって、ありのままの私を救おうと願ってくださる阿弥陀如来の大慈悲におまかせするしかない、と親鸞聖人は確信され、そのことを頭かにしてくだされたお釈迦様の恩徳を讃えておられるのです。つまりどんなに阿弥陀如来の本願がはたらきかけてくれていても、そのことに気が付かなかったのなら意味がないのです。親鸞聖人が、「慈父のように教え導いてくださるのがお釈迦様で、悲母のように包んでくださるのが阿弥陀如来である。」と『唯信鈔文意』(ゆいしんしょうもんい)という書物にも書かれているように、お釈迦様が説いてくださったからこそ、凡夫である私たちが真実の願いに出遇うことができるのです。お念仏が身に届いた喜びを、釈迦・弥陀二尊の恩徳として讃え詠われたのがこの「釈迦章」最初の四句ではないでしょうか。

## ※五濁

仏法の届かなくなった世において増していく社会的・身体的な五種の汚れ。



# 正法寺について

## お寺に身をおく

目まぐるしく変化していく現代社会においては、  
お寺はあまり変化がなくつまらないと感じるかもしれません。  
しかし長い歴史の中で受け継がれてきた教えや、  
それを伝えてきた場は、変化の著しい社会に身をおく我々にこそ、  
大切な何かを教えてくれるのではないのでしょうか。



## 仏教の教え

私達は必ず「死」にいくいのちを生きています。  
その身の事実に目覚め、現在生きている自分の「生」を問うていく。  
仏教はいま生きている私に、はたらきかけてくる教えです。



## お念仏の道

親鸞聖人が明らかにして下さった「お念仏の教え」は、  
阿弥陀如来の大いなる慈悲につつまれて、  
何が起こってくるか分からない苦難に満ちた人生を、  
明るくたくましく力強く生きていく智慧と力を、  
この身にいただいていく教えです。



## 届いていく場

そのような仏教の教えが届いていく場が真宗寺院の本堂です。  
老若男女問わず皆様に開かれた聞法道場として正法寺があります。  
どうぞ様々な紹介などをご覧いただき、  
まずはご自分にあった形でお寺にお越しいただけたらと思います。



正法寺住職・坊守

正法寺ホームページ <http://omura-shoboji.jp/>

正法寺 大村

検索

モバイル端末からアクセスする場合は  
QRコードをご利用ください

